

おほしさまになったおまわりさん

制作：おおくま町物語伝承の会、
（社）まち物語制作委員会

文・絵：いくまさ鉄平

福島県県内避難者・帰還者心の復興事業補助金事業



息子「お母さん、ねえねえ」

母「どうしたの？」

息子「この写真の人だれ？」

母「ああ、その人ね・・・お母さんの高校時代のお友達なんだ」

息子「へえ、でもなんで、お友達の写真がおうちにあるの？」

母「その人ね、お巡りさんなんだよ」

息子「へえ、そうなんだ。カッコいいね」

母「うっ・・・うん、その人ね佐藤雄太くんといって剣道やっていたね。後輩なんだ。すごく強かったんだよ」

息子「じゃあ、母さんと一緒だ。母さんも日本一になったもんね」

母「うん、日本一といっても職場の大会だけどね」

息子「でも日本一は日本一だよ」



NA:時代は高校時代にさかのぼります。そこは福島西高校の剣道部の道場です。

バンバン、バン(竹刀で撃ち合う音)

次はかかり稽古！！休むなー！！限界まで気を抜くなー！

雄太さん「め〜ん」

のぞみ先輩「よし、終わり」

雄太さん「いや、もう一本」

のぞみ先輩「今日はこれまで、続きは来週よ」

はあはあはあ



のぞみ先輩「トラック、腕上げたね」

雄太さん「いやあ、久々、一本取ることができましたが、もう一本、取りたかったなあ」

のぞみ先輩「あんた、勝つまで止めないからね。身が持たないよ。体力では男のあんたには勝てないもん。皆がトラックと呼ぶだけあって、佐藤君の馬力、トラック並みだもんね」

雄太さん「先輩、そういえば女だったんですね」

のぞみ先輩「なんだと」

雄太さん「いやいや、防具をつけて竹刀を交わしていると忘れてしまうぐらい凄いという事です。さすが福島県チャンピオンですね！」

のぞみ先輩「うまいこというなあ」

雄太さん「ええ、なにせキャプテンですから。上手の一つぐらいできないとね」

のぞみ先輩「上手ってなによ？」

雄太さん「まあまあ、それはいいから、もう一本お願いします」



のぞみ先輩「ダメダメ、今日はこれであがり、明日は模試なんだ。勉強しないとね」

雄太さん「そうでしたね。3年生となると大変ですね」

のぞみ先輩「そうなの、剣道ばっかで、そのつけがきて大変、トラックも私みたいになっちゃだめよ」

雄太さん「そうですね」

のぞみ先輩「なんだと」

雄太さん「冗談、冗談ですよ。でもまあ俺、大学いくつもりないし」

のぞみ先輩「大学行かずにどうするの」

雄太さん「高校出たら直ぐに働こうとおもってます」



のぞみ先輩「そういえば警察官になりたいって言ってたよね」

雄太さん「はい」

のぞみ先輩「トラックに警察官がつとまるかなあ。トラックみたいなお人よしが警察官になれんの」

雄太さん「そんなことないっすよ。俺の正義感の強さ知らないでしょ」

のぞむ先輩「知らないよ。徒突猛進なだけでしょ。そんな調子だと身が持たないよ。警察官は危険がつきものだし」

雄太さん「大丈夫です。そのためにも剣道やってんじゃないですか」

のぞみ先輩「なるほどね。でも、雄太は優秀なんだから、大学行ってから警察官になっても遅くないんじゃないの」



NA:時代は戻ります。

息子「それでお巡りさんになったんだ」

母「そう幼稚園の頃からの夢をかなえ福島県警のお巡りさんになったの」

息子「でっ、そのおまわりさんは今どうしてんの？」

母「う～ん……今ねえ……どうしてるかなあ」

息子「僕もおまわりさんにあってみたい」

母「……瑛心が生まれる前のことだけど大変な事がおきたんだ」

息子「僕、知ってるよ。大きな大きな地震があったんだよね」

母「そうだよ。去年の地震の時に話したよね」

息子「僕、地震、嫌いだ！」

母「母さんも嫌い！大嫌い！でもね瑛心が生まれる1年前の2011年、去年の地震とはくらべものないほど大きな地震がおきたんだ」

息子「ふ～ん、そうなんだ。その話、もっと聞かせて」

母「いいけど。なんで？」



息子「夏休みの宿題」

母「宿題？」

息子「夏休みの宿題の作文コンクールで、このおまわりさんになったお兄ちゃんのこと書きたい」

母「…うん、そうだね。トラックも喜ぶかもね。じゃあ話すから聞いてね」

息子「うん、お願い」

母「東日本大震災が起きた時、おにいちゃん幼稚園の頃からの夢をかなえ警察官になっていたの」

息子「すごいね。みんなのためにがんばったんだね」

母「そう…そうなんだけど…あの時は地震だけでなく大きな大きな津波が発生してね」



上司「2011年3月11日をもって佐藤雄太警部補を郡山署勤務を命ずる・・・雄太、がんばれよ。ここと違って忙しいぞ」

雄太警部補「お世話になりました。」

上司「富岡の農家のばっちゃんやじっちゃんもさびしがるぞ」

雄太警部補「はい。そう言えば夕張から今年も野菜届いたんで持ってきました。皆さんで食べてください」

上司「北海道洞爺湖サミットの警備で北海道に赴いた際、夕張市の農家さんとの付き合い今も続いていた」

雄太警部補「はい」

上司「雄太らしいなあ」



ゴゴゴゴゴ

雄太警部補「なっなんだ！」

上司「じっ地震だ！でかいぞ！つかまれ」

ゴゴゴゴゴ

雄太警部補「おっおさまったようだな。これだけでかいと津波がくっぞ」

上司「自動車警ら係、出勤。住民の避難誘導にあたれ」

同僚警部「了解。出勤します」



雄太警部補「先輩、おれも行きます」

同僚警部「雄太、行くのか？辞令が出たのに・・・」

雄太警部補「当たり前じゃないですか？いかんわけにいかんでしょ」

同僚警部「よし、ついてこい。増子、佐藤、富岡町の子安橋に向かいます」

ラジオ放送「東日本一円に津波警報が発令されました。沿岸部の方は至急高台に避難してください。繰り返しお伝えします。津波警報が発令されました沿岸部の方は」

ウ～ウ～ウ～(サイレン)



雄太警部補「ばっちゃん！何してっだ、」

町民「おお！駐在さん！すげえ地震だったなあ」

雄太警部補「そうだ。だから津波くっぞ！早くにげろ！」

町民「津波？大丈夫だべ」

雄太警部補「大丈夫じゃねえ。頼むから逃げてくれ」

町民「ああ、わっわかった、駐在さんがそこまでいうなら、財布とりにいって…」

雄太警部補「だめだよ。直ぐだ！直ぐ逃げるんだぞ」

町民「わかった！わかった！逃げるよ、逃げるから、でも駐在さんはどうすんだ」

雄太警部補「自分は海の方の家を確認してから逃げっから」

町民「気をつけなよ」



ウ～ウ～ウ～(サイレン)

雄太警部補「橋、だめですね。あの数珠つなぎの車の人に車捨てさせないとやばいですよ」

同僚警部「そうだな」

ウ～ウ～ウ～(サイレン)

雄太警部補「おりろ！車から降りて高台に逃げるんだ」

同僚警部「車を降りて走れ。走れ！津波が来るぞ！」

雄太警部補「おりろ！車から降りて高台に逃げるんだ」

同僚警部「車を降りて走れ。走れ！」

雄太警部補「山だ。山に逃げるんだ」

同僚警部「車は捨てるんだ。とにかく逃げろ。津波が来るぞ！」



ゴゴゴゴ

町民1「はあはあはあ、津波だ！津波が来たぞ」

町民2「お巡りさんは？お巡りさんはどこだ」

町民1「いない、いないぞ」

町民2「橋、橋じゃねえか。オラが駆け上がったとき、まだ・・・」

ゴゴゴゴゴゴ

町民1「津波だ！わああああわー津波だ！わああああ・・・」



※音楽「星に願いを」もしくは福島のスィンガーソングライターのオリジナルソング。(菅野順、佐藤雅人、門馬よしひこなど)



母「おにいちゃんはどこか遠いところから、今も行方不明になった人を探してるんだと思うよ」

息子「すごいね。でももう、あれから何年もたっているんだから、帰ってもいいのにな」

母「そうだね。瑛心からもいってあげて。もういいよ帰ってきていいよって……」

息子「わかった。僕、おまわりさんに作文を書くよ」

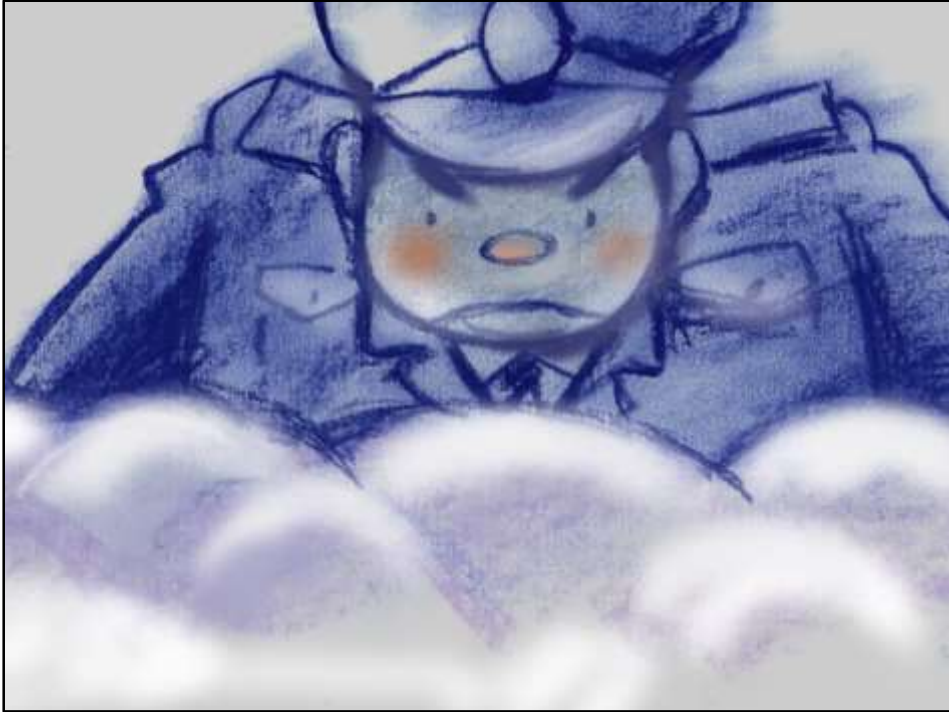


息子「ぼくのおうちにはおまわりさんのしゃしんがあります。にこにこえがおのしゃしんです。このおまわりさんは、おかあさんがこうこうせいのに、いっしょにけんどうをしていたそうです。



息子「ぼくがうまれるまえにひがしにほんだいしんさいがおきて、つなみにパトカーごとながされて、いまもみつからないとおしえてもらいました。おかあさんにそのときのつなみのえいぞうをみせてもらいました。がんじょうなおうちやくるまが、おもちゃのようにかんたんにながされていくのを見て、とってもこわくなりました。ぼくは、どうしておまわりさんはにげなかったのかなとおもいました。もしもぼくがそこにいたら、すぐになげたとおもいます。「とってもせいぎかんのつよいおにいちゃんだったんだよ。」と、おかあさんからききました。おまわりさんもとってもこわかったとおもいます。だけど、せいぎかんがつよいから、つなみからまちにすむ人たちをまもりたかったのだとおもいます。

おまわりさんのおかげでたすかった人がたくさんいたときいて、ぼくは、ヒーローのようにおもえました。



息子「いまおそらの上で、おほしさまになって、まだみつかっていない人たちをさがしてくれているとおもいます。そうさくかつどうがおわったら、はやくでてきてください。ぼくのおかあさんもまっています。やさしくて、つよいところをもったおまわりさんのこと、ぼくは、ぜったいにわすれません。ぼくも、おまわりさんのようなたくさんの方のやくにたてるおとなになれるように、おべんきょうとけんどうをがんばるので、みまもっていてください。



18(表彰状の絵)

NA:会津若松市立一箕小学校 高橋瑛心君の作文は第28回全国小学生コンクール「わたしたちまちのおまわりさん」で内閣総理大臣賞を受賞しました。